

製品名 ボンフロンDEつち主材(粗目)

AGCコーテック株式会社

| | | | | | |
|------------|--|-----------|---------|--------------|------|
| 系統 | フッ素樹脂系エマルジョン塗料 | | | | |
| 特徴 | 1. 高耐候性を有しています。 2. 耐アルカリ性、耐水性を有しています。 | | | | |
| 用途 | 長期にわたる耐久性と美観を要求される箇所 | | | | |
| 荷姿 | 20 kg | | | | |
| 色相 | 各色 | | | | |
| 組成 適用法令 | | 成分 | % (重量比) | 主な適用法令 | |
| | 白色 | 樹脂エマルジョン | 16 | 消防法 危険物区分 | 該当なし |
| | | 顔料 | 72 | | |
| | | 水 | 8 | 労働安全 衛生法 | 該当なし |
| 添加剤 | 4 | | | | |
| | 計 | 100 | | | |
| 塗料性状 | | 粘度 (Pa·s) | 比重 | 加熱残分 (%) | |
| | 白色 | 7.5 | 1.65 | 86.0 | |

※ 塗料性状に記載している数値は代表値を示すものであり、若干の変動があります。

| | | | | | |
|--------------------|-------------------|--------------------------|-----------|-------------|---------|
| 取扱上の注意 | 別紙及びSDSを参照してください。 | | | | |
| 塗装条件 | 雰囲気 | 温度5°C以上、湿度85%RH未満 | | | |
| | 希釈剤 | 清水 | | | |
| | 塗装方法 | タイルガン(6~8mmφ)、金ゴテ(押え用) | | | |
| 標準所要量 希釈量 白色 | 塗装方法 | 所要量 (kg/m ²) | | | 希釈率 |
| | | 理論 | 塗着効率 | 標準 | |
| | 吹付ガン | 1.72 | 50% ~ 70% | 2.30 ~ 2.80 | 0% ~ 2% |

※ 上記標準所要量は、標準的な所要量であり、被塗物の形状・素地状態及び塗装方法により、差が生じます。

| | | | |
|------------|-------|-----------|-------|
| 標準膜厚 白色 | 希釈率 | 標準膜厚 (μm) | |
| | | 乾燥膜厚 | WET膜厚 |
| | 0% | 800 | 1040 |
| | 2% | | 1076 |
| 乾燥時間 | | 23°C | |
| 塗装間隔 | 指触乾燥 | 4時間 | |
| | 半硬化乾燥 | — | |
| | 硬化乾燥 | 12時間 | |
| | 塗装間隔 | 6時間以上3日以内 | |

※ ポットライフと乾燥時間は目安です。無希釈、一定の温度条件の恒温槽にて測定したものです。

※ 乾燥時間の測定方法は、JIS K 5600-1-1 4.3.5によります。

※ 本書類の内容は、予告なく変更する場合があります。

制定：2003年5月1日

改定：2022年1月1日

取扱い上の注意事項

1. 取扱い方法及び保管

- ・十分に攪拌してからご使用ください。
- ・被塗面の油脂、塵埃、水分などの付着物は除去してください。
- ・開封後は出来るだけ早くご使用ください。
- ・火気のあるところでは使用しないで下さい。
- ・取扱い作業場所には、局所排気装置を設けて下さい。
- ・塗装中、乾燥中とも換気をよくし、蒸気を吸込まないようにして下さい。
- ・取扱い中は、できるだけ皮膚に触れないようにし、必要に応じて、有機ガス用防毒マスク又は送気マスクを付け、更に頭巾、保護めがね、長袖の作業衣、えり巻きタオル、保護手袋等を着用して下さい。
- ・容器からこぼれた場合には、ウエスで拭きとって、水をはった容器に保管して下さい。
- ・塗料あるいは溶剤等の付着したウエスや塗料カス、スプレーダスト等は廃棄するまでは、必ず水に漬けておいて下さい。
- ・取扱い後は、手洗い及びうがいを十分に行って下さい。
- ・缶上部の取っ手は手下げ専用です。ロープやフック等を取っ手に取り付けてつり下げないで下さい。
- ・貯蔵中は容器を密閉し、直射日光や雨のあたらない、換気の良い一定の場所を定めて保管して下さい。
- ・部外者の出入りできないところで、かつ子供の手の届かないところに保管して下さい。

2. 救急処置

- ・皮膚や着衣に付着した場合は、水やせっけんで十分に洗い落とし、皮膚に痛みや外観の変化があるときは、医師の診察を受けて下さい。
- ・目に入った場合は、多量の水で洗い、できるだけ早く医師の診察を受けて下さい。
- ・蒸気、ガス等を吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けて下さい。
- ・誤って飲み込んだ場合には、直ちに医師の診察を受けて下さい。

3. 火災時の処置

- ・万一、火災が発生した場合には、炭酸ガス、泡又は粉末消火器を用いて下さい。

4. 廃棄

- ・廃材、材料の付着したウエス等は安全な方法で保管し、廃棄物処理業者に委託して処理して下さい。
- ・容器は中身を使い切ってから、廃棄物処理業者に委託して処理して下さい。

5. 誤使用

- ・本来の用途以外(シンナー遊び、汚れ落とし等)に使用しないで下さい。
- ・指定された以外の材料と混合しないで下さい。

6. 詳細情報

- ・詳細な情報が必要な時は、安全データシート(SDS)をご参照下さい。

7. 低温時に塗装する際の注意事項

| 想定される状態 | | 発生する不具合 | 対策、注意点 |
|-----------|-----|---|--|
| 下塗が未硬化の場合 | | <ul style="list-style-type: none"> ・下塗り成分が移行(ブリード) ・ちぢみ(旧塗膜がある場合) ・上塗り塗膜との融合 | <ul style="list-style-type: none"> ・下塗り塗膜が硬化状態にあることを確認する。 ・下塗り塗膜に外観異常がないか確認する。 |
| 硬化速度の低下 | | <ul style="list-style-type: none"> ・塗装後の結露や降雨による影響を受ける時間が長くなってしまう。 | <ul style="list-style-type: none"> ・塗装後に気温の低下、降雨の恐れがある場合は、塗装しない。 |
| 水分の混入 | 塗装前 | <ul style="list-style-type: none"> ・塗膜の膨れ、発泡、軟化。 | <ul style="list-style-type: none"> ・塗装前に被塗面の状態を確認する。 |
| | 塗装後 | <ul style="list-style-type: none"> ・塗膜の膨れ、発泡、雨跡の形成、艶の低下、白化など。 | <ul style="list-style-type: none"> ・塗装後に気温の低下、降雨の恐れがある場合は、塗装しない。 |